

報

奈良女子高等師範學校教授 文學士 本庄 精次君

Rapports de la Sensibilité et de l'émotion. (P. Sollier)

福富 一郎君

教育學會

波多野教授 早稻田大學教授、東京文科大學講師たりし、文學博士波多野精一氏は今度京都文科大學教授に轉任、宗教學講座擔任と決定した。開講は第二學期初よりの豫定である。

哲學倫理學會例會

十二月一日、午後六時より、學生集會所に於て開會、左の如き講演があつた。

國家的任務の發展 法學博士 佐々木惣一氏

教授は先づ國家の概念を規定し、國家的任務といふことの意義を明かにし、次に國家的任務の抽象的方面を論じ、最後に、その具體的任務として、國民の幸福、個人の自由、及び社會的要求の満足といふ如く、三階段に亘りて論理的發展をなすといふことをば精細に論述せられた。講演後茶話會となつて、國家の本質、國家と道德、集合意志などの問題について議論に花が咲いた。來會者、西田、朝永、野上、坂口、諸教授、その他學士學生五十餘名非常な盛會で、十時過ぎ散會した。

心理學讀書會

十二月十一日午後三時より京都文科大學心理學讀書室にて例會を開き、左の講演があつた。

ゼエムスランゲの感情説に就て

十二月四日午後六時より學生集會所に於て開會、次の講演があつた。

希臘教育の特

高橋 俊 乘君

希臘古代の教育を調べて見ると、第一に氣付く特色は精神と身體との調和を求めたと言ふ事である。第二に氣付く事は次代の國民をして國民生活なり個人生活なり、とにかく現實生活に馴れさせるやうに仕込む事である。第三には個人が個人に模倣させて教込む教育である。一人が一人だけを教育した事も多かつたのである。彼等の三特質はホメロス時代に萌芽を發し、スパルタに著しく現はれ、次いでアテネに於いては當時既に盛んであつた思想界の動搖のために幾らか變じ、遂にペロポネソス戦役の後に全く亡んでしまつたのであつた、此れから以後は殆ど性質の違ふ、アリストアネスの所謂「新教育」が發展して來るのである。

講演後、質問やら講演内容に關連した論議等が盛に起されて夜の更けるのも忘れる程であつた。